

アーバンサイクルパークス広島

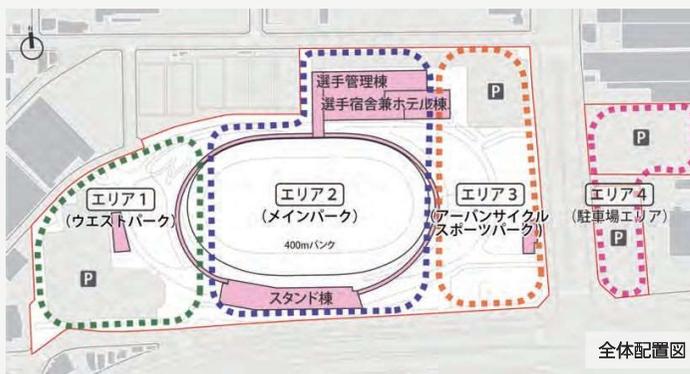
コンセプト

広島競輪場は、日本最大級のアーバンサイクルスポーツ(*)施設を有する、
競輪とアーバンサイクルスポーツが融合する市民公園「アーバンサイクルパークス広島」として生まれ変わります

(*) アーバンサイクルスポーツとは：アーバンスポーツとサイクルを組み合わせ、BMX やスケートボード、キックバイク等、車輪がある乗り物全般を使った競技を示すものとして独自に定義

アーバンサイクルパークス広島 7つの特徴

- 1 誰もが安心して競輪を楽しめます
- 2 自転車等を通して
様々なスポーツやレジャーを楽しめます
- 3 競輪場をオープンな施設にします
- 4 緑あふれる施設とします
- 5 地域の安全・安心なまちづくりに貢献します
- 6 サイクリストを中心に
スポーツ愛好者の交流の場にします
- 7 宇品地域のランドマークとなります



エリア1 (ウエストパーク)

芝生広場、屋内休憩所、子供用遊具、菜園等、地域に開かれた緑あふれる公園エリア



ウエストパーク全体



(参考) 子供用遊具



(参考) 芝生広場



(参考) 健康ベンチ



(参考) みんなの畑



(参考) 多目的室

施設概要

●芝生広場

子供用遊具やベンチ（災害発生時には「かまど」になるものや健康器具を兼ねたもの等）とともに、「みんなの畑」、「みんなの花壇」を設け、地域の皆様が気軽に立ち寄ることができる場所を目指します。

●屋内休憩所【木造 1階建て】

18畳の多目的室、トイレ等の機能を持つ小規模建物で、地域の皆様やウエストパークに遊びに来た方々の憩いの場所としての利用を想定しています。

●駐車場

既存の約 90 台から約 180 台へと大幅に拡大します。現在同様、指定緊急避難場所として想定しています。

●駐輪場

既存と同様に約 150 台の自転車やオートバイを駐輪できます。また隣接して「ぴーすくるポート」を設け、アーバンサイクルパークス広島への交通手段の拡充を図ります。

施設を利用した取り組み

- ・屋内休憩所の多目的室にてヨガ教室等を開くなど、様々な活用を図ります。
- ・地元で取り組まれているフードバンクが活動できるよう支援します。
- ・「みんなの畑」、「みんなの花壇」を地域の皆様に利用していただくことで、定期的に人が訪れる場所にします。

安心して競輪を楽しめ災害にも対応するスタンド棟、サイクリスト等が交流できる選手宿舍兼ホテル棟を整備



スタンド棟外観



ホテル棟外観



スタンド棟エントランス



(参考) ホテルエントランス

施設概要

●スタンド棟【鉄骨造4階建て】

帆のような屋根を持ち、宇品の新たなランドマークともなるスタンド棟には車券発売機能と競輪開催機能を集約させます。ユニバーサルデザインを取り入れ、災害にも対応する建物とします。

- 前面：ゴール前の白熱した競り合いが楽しめる立ち見観覧ゾーンや、臨場感ある観戦が楽しめる屋外一般席を設けます。
- 1階：投票所、大型ビジョンやイベントステージのあるモニター観覧席を設けます。また、ファミリーコーナーのあるフードコートも設けます。
- 2階：一般席や指定席の他、グループ席等を設け、付近に投票所を配置します。空中歩廊への出入口が東西にあり自由に移動が可能です。また、お客様連れの方々にも楽しんでいただけるよう、キッズスペースや子供用トイレ、授乳室を設けます。
- 3階：特別観覧席としてグループで利用できる個室や個人席を設けます。その他、競輪開催諸室や来賓室、会議室、事務室等を設けます。
- 4階(屋上)：大きな膜屋根の下にグループ席やペア席等、多様な座席を設けます。災害用備蓄倉庫を設け、非常用食料、水などを保管します。

●バンク

現在の400メートルというバンク周長は継承しつつ基礎から新設します。新たに照明設備を設け、ナイター競輪やミッドナイト競輪の開催にも対応します。また、現在同様、指定緊急避難場所として想定しています。

●空中歩廊

スタンド棟2階からバンクにつながり、そのままバンクを巡ることができ、どの場所からでも臨場感あふれるレースを楽しむことができます。バンクの他、アーバンサイクルスポーツパークや芝生広場を眺めることもできます。まるで空中を歩くイメージを持つことから「空中歩廊」と名付けました。

●屋外大型ビジョン

レースをより一層楽しむための情報を提供します。

●選手宿舍兼ホテル棟【鉄骨造5階建て】

競輪非開催日には多機能なホテルとなり、競輪開催時には選手宿舍と選手管理機能を持つ建物です。(競輪開催時でも、選手と接しないゾーンはホテル利用が可能)

- 1階：ホテルゾーンではサイクルカフェが併設されたエントランスを始め、修理もできるサイクルショップ、グッズショップ、トレーニングルーム、大浴場(サウナ付き)を設け、サイクリスト向けホテルとしての機能を集約・充実させます。その他、自転車ロードレースの地元プロチームである「ヴィクトワール広島」の事務所も設置します。選手管理ゾーンにはビッグレースを誘致可能な検車場やローラー練習場等の選手管理施設を配置します。
- 2階：一部の席から競輪が観戦可能で誰でも利用できるレストランを配置する他、客室や大浴場(サウナ付き)を配置します。選手管理ゾーンには選手控室など開催用の諸室を設けます。
- 3階：客室の他、会議室やマッサージルームを設けます。
- 4階：客室の他、トレーニングルームを設けます。
- 5階：バンクが望めるテラスを持つスイートルームを含む客室と、選手用の食堂を設けます。また、4階及び5階の廊下などは、浸水時緊急退避施設(※)のスペースにもなります。

(※) 浸水時に地域の皆様が退避できる施設のこと。4階以上で退避上有効な場所が100㎡以上等の基準があります。

施設を利用した取り組み

- ・ホテルやその他の施設を利用するツアーの企画や各競技の合宿の誘致に取り組みます。
- ・サイクリストホテルとして、ワンストップサービスを提供します。
- ・バンク内の芝生を活用してグラウンドゴルフにも利用可能です。

ギャンブル依存症の対策

- ・お客様相談室として、プライバシーに配慮した相談窓口の設置や啓発活動(ポスター・チラシの掲示、場内放送)などの基本的な対策を実施します。
- ・車券発売機能の一部をキャッシュレスシステム化することで、会員管理を行い、本人・家族からの申請による購入金額の上限設定を可能とするとともに、会員登録の際の年齢確認により20歳未満の方の車券購入を防ぎます。

エリア3 (アーバンサイクルスポーツパーク)

様々なスポーツやレジャーを誰でも楽しめることで、賑わいと新しいスポーツ文化を生み出すエリア



施設概要

●アーバンサイクルスポーツパーク

子供から大人まで、BMX、スケートボード等のアーバンサイクルスポーツを楽しむことができます。お子様が楽しむ姿をご覧になる親御様のために、屋根付きの休憩スペースも設置します。

- BMX ゾーン：BMXは、フリースタイル初心者用、フリースタイル中上級者用、フラットランドの各ゾーンを配置します。
- スケートボードゾーン：初心者から上級者まで楽しめる多種多様なセクションを配置します。
- キックバイクゾーン：自由に走ることができるゾーンと周回コースを配置し、お子様が段階的に自転車に慣れ、好きになる仕組みを導入します。
- おもしろ自転車ゾーン：周回コースを設け、おもしろ自転車を楽しめます。
- 3×3 ゾーン：人気が高まっている3人制のバスケットボールのコートを1面配置します。

●パーク管理棟【鉄骨造 1階建て】

アーバンサイクルスポーツパークの管理事務所と利用者向けの諸機能を持つ建物です。トイレや売店に加えシャワールームやコインロッカーを設け、利便性を高めます。

●駐車場

主にホテル宿泊者やサイクルショップ客等、ホテル棟利用者にご利用いただけます。(アーバンサイクルスポーツパーク利用者は、主にエリア4の駐車場のご利用を想定しています)

●駐輪場

15台の駐輪場と、それに隣接した「ぴーすくるポート」を設け、アーバンサイクルスポーツパーク利用者やホテル棟利用者の利便性を高めます。

施設を利用した取り組み

- ・キックバイク大会を開催します。
- ・BMX やスケートボード等の関係者と協力して、大会誘致に取り組みます。
- ・各競技のスクールを開催します。
- ・ヴィクトワール広島の協力を得て、各年代向けの自転車安全教室を開催します。



エリア4(駐車場エリア)

広々とした駐車場

施設概要

●駐車場

既存の駐車場を残し、多くの来場者に対応できるようにします。また、現在同様、指定緊急避難場所として想定しています。

緑あふれるオープンな施設

誰でも気軽に立ち寄れるオープンな競輪場に

- 現競輪場のイメージを脱却してオープンな競輪場にするために、周囲の壁は設けず、最小限のフェンスのみを設置することで、オープンなイメージとセキュリティを両立
- ゲートを増やし、多方面からの入場が可能
- 周囲を植栽等することで、緑あふれる環境を実現



環境への配慮

新施設の整備に当たっては環境にも配慮

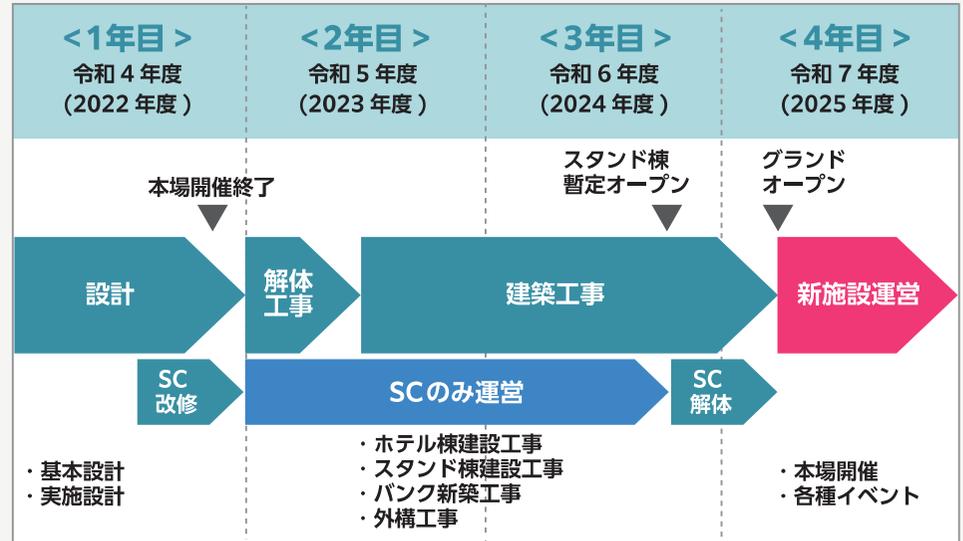
- ウエストパークやバンク内を天然芝生化（現状は石敷きや人工芝）
- 投票のキャッシュレス化により車券などの紙の使用を低減
- レース規模によって屋内の仕切りを柔軟に変更できるようにし無駄な空調や照明などを削減
- LED照明化することで消費電力を低減
- 既存競輪場の部材の再利用
- 伐採する樹木を再利用
- 既存樹木を積極的に残置

スケジュール

令和7年度(2025年度)グランドオープンに向けて

●令和7年(2025年)7月にグランドオープンを予定します

令和5年(2023年)4月から解体工事を開始します。工事期間中は他の競輪場を借り上げて広島市営競輪を開催します。再整備工事期間中も場外車券売場としての機能を維持するため、スタンド棟の完成までは現サービスセンター(SC)を活用します。スタンド棟の完成後、新スタンドに車券発売機能を移設して暫定オープンし、現サービスセンター(SC)を解体します。



座席数と駐車台数

階数	座席種類	座席数	駐車台数	
1階	屋内一般席	約150席	西駐車場	約180台
	屋外一般席	約150席		
2階	屋内一般席	約190席 (車椅子2席)	ホテル前 駐車場	約90台
	指定席 グループ席	約110席 (車椅子2席)		
3階	特別観覧席	約40席	東駐車場	約800台
4階	屋上席	約130席		
合計		約770席	合計	約1,070台

高松競輪場再整備事業に係る公募型プロポーザル提案概要 (R6. 1. 31公表)

「自転車文化を創造するハイブリッド競輪場」の実現に向け、自転車を軸に、市民と観光客の憩いとアクティビティを創造します

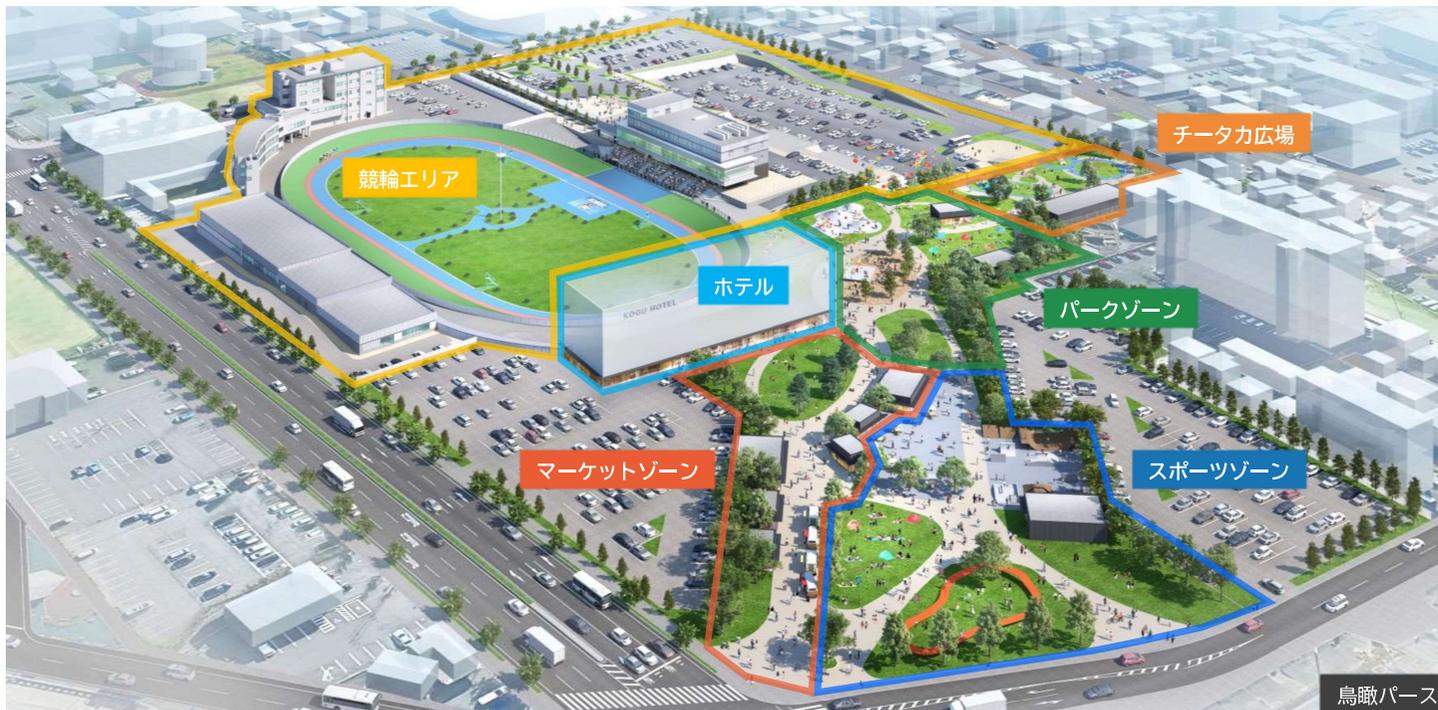
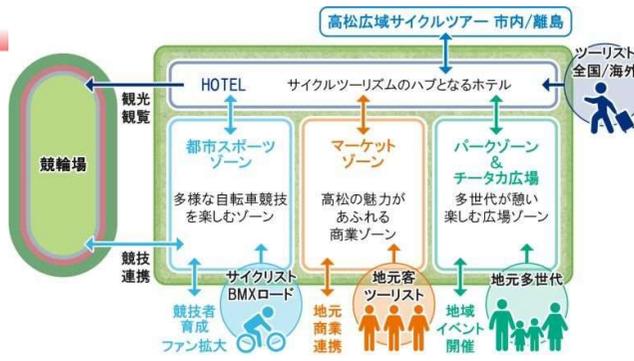
高松競輪場再整備事業 提案概要

再整備の方針

サイクルツーリズムのハブとなるホテルを中心に、そこに広がる多世代が集える広場群や、高松らしさあふれる店舗群、自転車への興味を喚起するコンテンツで、市民と観光客の賑わいと自転車ライド気分をつくり、サイクルツーリズムや自転車競技へと誘います

施設整備のポイント

- サイクリストの需要に応え、非日常体験を提供するホテル
- 競輪と高松市の魅力との相乗効果を生む施設
- 環境に優しく、市民に愛される緑化空間



スポーツゾーン



BMXをはじめとする都市型スポーツ集積ゾーン
アマチュアもプロも、夢になって自分の技を磨ける各種スポーツのフィールド。未来のアスリートがここから巣立っていく。

パークゾーン



芝生が広がる憩いと遊びの公園ゾーン
コーヒー片手に寛げるカフェや、子どものプレイグラウンド、芝生ではピクニックなど、思い思いに過ごすリラックス時間を提供。

マーケットゾーン



高松と自転車の魅力が融合する商業集積ゾーン
競輪場が見えるホテルや、前庭での日曜マルシェ、沿道に軒を連ねるショップなど、観光客にも地域にも嬉しい賑わいの核。

チータカ広場



親子で過ごしやすい地域愛着の広場
寄り合いで使える集会所からは遊具で遊ぶ子どもの姿も確認でき、子育て世帯も安全安心に過ごせる親しみのある地域の場。

各ゾーンのご概念

※本提案内容は現時点でのイメージであり、今後の協議により詳細を決定してまいります。

競輪場として



スタンド棟外観パース (イメージ)



スタンド棟内観パース (イメージ)

自転車・都市型スポーツの拠点として

自転車・都市型スポーツ振興の循環モデル



自転車・都市型スポーツ振興の循環モデル



サイクリストの拠点として



サイクリングマップ



競輪場施設の設計概要

- 臨海部と住宅地との緩衝帯となる街区計画
- 高松らしさを取り入れた外観計画
- 誰もが利用しやすく、競輪の多様な楽しみ方を詰め込んだ施設

ギャンブル依存症対策

- 全従業員を対象とした研修の実施
- AIカメラでの判別とスタッフによるお声がけ

※依存症が疑われる方でご希望の方への対策です。

自転車・都市型スポーツを「知る」「観る」「遊ぶ」「競う」ことを総合的に体験できる場の演出

若者や子ども、ライト層に対して、「知る」「観る」機会を提供し、認知度向上と裾野拡大に寄与(①)

愛好者や競技を希望する層に対して、「遊ぶ」「競う」機会を提供し、競技人口拡大と競技発展に寄与(②)

他のコンテンツとハイブリッド化し、観戦者や随行家族にも安全、安心に楽しく過ごしていただく場を提供(③)

サイクリングロードの中継地、自転車の魅力発信基地としての取組みを展開

自転車をテーマとしたホテルを誘致し、サイクルツーリズムのハブ化

サイクリスト向けサービスの提供、自転車の多様な楽しみ方「健康・魅せる・コミュニケーション手段」の発信

広域からの集客と高松中心市街地や臨海部への送客を行う拠点化

※本提案内容は現時点でのイメージであり、今後の協議により詳細を決定してまいります。

地域のみなさまの居場所として



子ども・子連れへの配慮

子どもで賑わうパークゾーン

新チータカ広場

- 多彩な遊具の設置
- 大人が見守るスペースの設置

スタンド棟

- キッズスペースの設置
- 利用しやすい授乳室の設置

パークゾーン

- 多数の芝生広場の設置
- ふわふわ遊具の設置

場内管理棟の概要

多目的スペースを設置し、チータカ広場、パークゾーンと併せてパブリックスペースとして地域に開放する予定

子どもだけでなく、大人も使えるコミュニティスペースや見守りスペースを用意

地域のみなさまに自転車の多様な楽しみ方を発信するイベントを開催し、自転車への愛着形成を促進します



チータカ広場のコンセプト

- 自転車や高松らしさが想起され、自転車や地域への愛着が形成される場所
- 多くの家族連れが訪れ、継続的な賑わいを創出する場所
- 訪れる家族連れや子どもたちが出会う場所
- 自転車を軸に学び、育つ場所

チータカ広場に設置する遊具と利用イメージ

- 自転車への興味につながるオリジナル遊具
- 自転車に「乗る」「漕ぐ」を体験するオリジナル遊具
- オリジナル遊具を使用した子ども向けイベントの開催

※本提案内容は現時点でのイメージであり、今後の協議により詳細を決定してまいります。

熊本競輪場施設整備基本計画 ～概要版～

I. 再開の決定

【再開決定の考え方】

1. 熊本競輪は累計 660 億円を一般財源に繰出し、都市基盤など市民生活の向上に寄与してきた
2. 熊本地震により大きな被害を受け自場開催ができない状況のなか、再開の可否を含めた競輪場のあり方について検討し、「復興財源への寄与」「防災拠点として生まれ変わること復興のシンボルとなり得る」として再開を決定

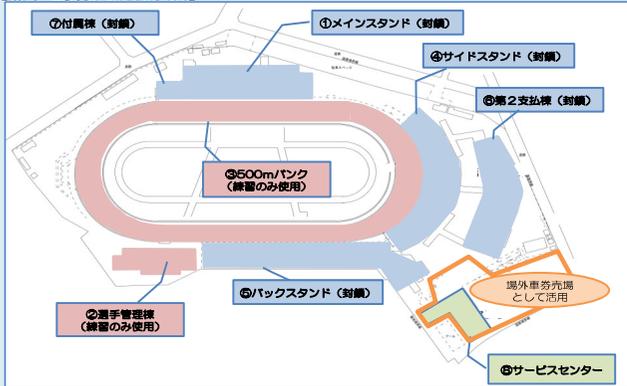
【整備手法の検討結果】

3. 施設整備手法については、競輪事業会計からの繰入の継続と財政基盤の確保を考慮して、整備費用が安価である既存施設改修が有効
4. 熊本競輪の再開は、その事業収益が熊本地震からの復興財源に寄与することを目的としており、収益性の面からも 400mバンクの整備が有利

II. 熊本競輪場の現状

1. ほとんどの施設が地震で被災し、一部を除き封鎖中
2. 被害がなかったサービスセンターを活用して場外発売を実施

【熊本地震後の施設状況】



【被害状況】（写真 左：バックスタンド、右：サイドスタンド）

- ・メインスタンド…4.5 階審判室大破（封鎖中）
- ・バックスタンド…観覧席ガラス破損（封鎖中）
- ・サイドスタンド…大屋根破損（封鎖中）
- ・第2支払棟…内部損傷（封鎖中）
- ・選手管理棟…内部損傷（立入り制限、選手が一部使用）
- ・サービスセンター…被害なし（場外車券売場として使用）



III. 検討の経緯

1. 【熊本競輪事業検討会】の意見

【競輪場の再開について】

- 意見まとめ
- ・復興財源として寄与するために現地で早期に縮小再開が望ましい
 - ・3つの理念「地域貢献」「災害対応」「アマチュアスポーツの振興」の実現、売り上げ向上、経費削減
 - ・防災拠点として市民生活に貢献

【バンク周長と施設整備手法について】

- 意見まとめ
- ・総合評価の結果 400mバンクによる施設整備を提案
 - ・バンク縮小により新たに生まれる空地を生かし、3つの理念の実現を図る
 - ・財政基盤維持のため、既存施設の利活用を図る

2. 検討のプロセス

【3つの理念の実現】

- ・都市公園内の施設として不要な施設を整理し、市民が活用できる施設や空間の整備、災害時を想定した防災倉庫や避難所としての活用、建物やバンクを広く自転車競技の練習・大会に利用できるように施設整備

【施設規模の設定】

- ・競輪場収容規模：5,000 人、メインスタンド収容規模：2,000 人
- ・駐車場：500 台

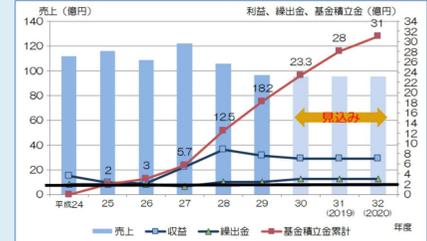
【整備財源の見通しと考え方】

- ・施設整備基金は、一般会計への繰入金 2 億円を確保したうえで、2020（平成 32）年度時点で約 31 億円の積み立てを見込む
- ・場外の駐車場を売却することでさらに財源の確保が可能
- ・施設整備は、基金積立額および駐車場売却による財源の範囲内で行う

【施設整備手法の検討】

- ・周長別平均では、400mが収益性、G I 誘致率等が高い
- ・バンクを縮小しても、既存施設改修で対応可能

（熊本競輪の収支見込）



（場外駐車場の状況）



IV. 施設整備の基本理念

1. 機能が集約された競輪場
2. 地域防災、地域コミュニティの拠点となる競輪場
3. アマチュアスポーツ振興の拠点となる競輪場

V. 基本理念に基づく整備イメージ

A. メインスタンド (耐震補強・大規模改修)

B. 空間の活用 (駐車場・小規模公園・緑地整備)

【収容規模】

建物収容数：2,000人 (1,250席)
 場内収容数：5,000人 (立見含む)
 駐車場台数：500台

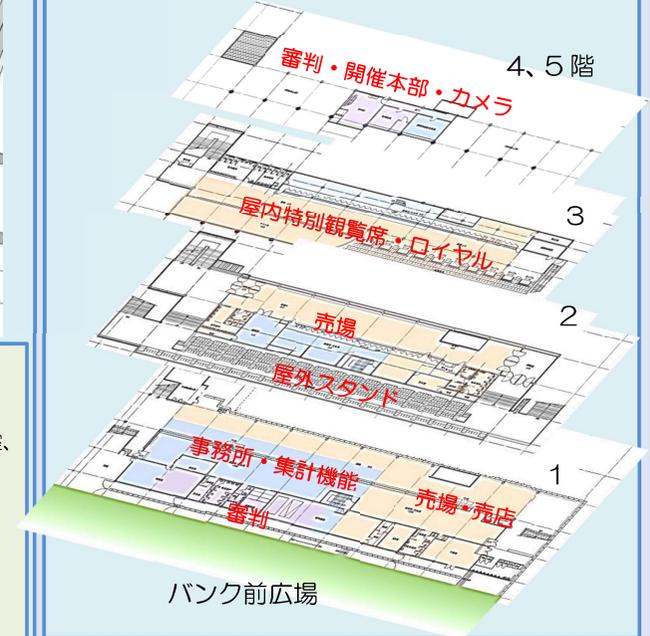


C. 選手管理棟・自転車競技練習棟 (耐震補強・大規模改修・増築)

D. サービスセンター (地域開放施設として整備)

既存メインスタンド改修イメージ (参考)

- ・解体施設の機能を集約
 ……屋内観覧席、施行者事務所、売店・食堂、集計センター等
- ・集約による効果
 ……運営の効率化、維持管理費用の低減



1. 【機能の集約】

- ・メインスタンドに観戦・サービス機能・施設管理機能を集約
- ・3階大屋根下の一部を屋内化 (特別観覧席、ロイヤル席、来賓席を整備)

(屋内化イメージ)



(屋内席イメージ)



(資料) 武雄競輪場

2. 【地域防災、地域コミュニティの拠点】

- ・駐車場を整備、災害時は避難場所として活用
- ・バンクを含め一般開放、イベント会場等に活用
- ・サービスセンターを地域開放施設として活用
- ・災害用マンホールトイレ、防災井戸、防災倉庫の整備

(バンク内イベントイメージ)



(資料) いわき平競輪場

(マンホールトイレ)



3. 【アマチュアスポーツ振興の拠点】

- ・1階の検車スペース拡充
- ・3階にガールズ選手控室の整備
- ・増築部分に一般市民に開放されたローラー練習室、ジム、シャワー室、会議室等を整備

(増築イメージ)



(資料) 豊橋競輪場

(ローラー室)



(資料) 別府競輪場

VI. 整備費用・スケジュール

1. 概算事業費 : 約 29 億円

2. 竣工予定 : 2021 (平成 33) 年 12 月

(概略スケジュール)

項目	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度)	2021年度 (平成33年度)
設計 (建物・敷地・バンク)	11 か月		
解体工事 (建物・バンク)	8 か月		2 か月
建築工事 (建築改修・増築)		12 か月	
土木設計・工事 (バンク・駐車場)			15 か月

大宮双輪場のあり方の検討状況について

大宮双輪場関係者のヒアリング（令和6年1月22日）

区分	意見
競輪関係者	<ul style="list-style-type: none">・日本競輪選手会埼玉支部所属選手のうち80名近くの選手が大宮で練習しており、西武園競輪場と比べると大宮が圧倒的に多く、競輪選手の練習は競輪開催時やアマチュアの練習時を除いて年間170日間程度となっている。・埼玉県は競輪だけでなく高校生と成年を含めたアマチュアの自転車競技連盟の登録者が日本で1番を誇っており、この双輪場は全国でも自転車競技がとても盛んに行われている場所である。・埼玉県とさいたま市は自転車に関連した街づくりを推進している中で、さらなる自転車の普及や振興、そして自転車競技と競輪の明るい未来のためにも、新しい双輪場として生まれ変わることを願っている。
自転車競技関係者	<ul style="list-style-type: none">・高校生の練習は土日に行くと、参加者は普段は60～80名になり、レースが近くなると100名近くになる。・廃止ということになると、生徒達の練習場所が失われて、競技人口が減る可能性がある。・カントのついた競技場で練習できないと生徒達は実際の大会やレースで危険を伴う状態になってくる。安全面も考えると必ず練習する場所が必要である。
地元自治会関係者	<ul style="list-style-type: none">・役員会で4回程度議論したので、その内容も踏まえて話す。・1場体制は望んでいない。仮に1場体制にするなら、大宮は残してもらいたい。大宮は交通の利便性があり、これから先のポテンシャルもある。・建替えにあたっては、オリンピック種目などができる複合施設とし、可能であるならばドーム型の全天候型が望ましい。さらに災害時の対策拠点となるような施設にしてほしい。・昔は周辺環境が悪く問題があったが、現在は全て解決しており問題はない。競輪場から離れた地区の自治会長と話しても問題はないとのことだった。

大宮双輪場のあり方の検討状況について

前回委員会（令和6年9月24日）における各委員からの主な意見

委員	意見
岩崎 委員長	<ul style="list-style-type: none">・競輪事業を行う上で、将来にわたり財政貢献がどの程度見込めるのかが重要で、自転車競技場として自転車振興をどう考えていくかという点も大切である。・大宮公園内であれば、現在の施設から軽量化した上で、他のスポーツができる施設や文化教養施設、カフェ・レストランなどを持つ複合施設として付加価値のある施設でないといけないと考えている。また、地震や水害など頻発する自然災害に備え防災機能を持つことも考えられる。・大宮スーパー・ボールパーク構想との調整で第2公園に移すという案もあるのではないかな。
小川 委員	<ul style="list-style-type: none">・インターネットでの車券購入が増えているため、現状と同じような大規模な施設であれば大宮公園内になくてもよいのではないかな。・複合施設として競輪専用でない施設にするなら競輪場を残してもよいかもしれない。
栗原 委員	<ul style="list-style-type: none">・大宮公園は非常に潜在能力が高いエリアなので、現状の双輪場よりも良い活用が考えられ、競輪場ありきではなく他の可能性を検討することも必要である。・仮に現在地で存続させるのであれば、カフェやレストランなど競輪以外の要素も含めた公共に資する形態にできるのであれば存続もあり得る。
小沼 委員	<ul style="list-style-type: none">・現時点の資料では、双輪場を存続させる必然性は少ないと読めてしまう。また、昨今の電気代の高騰など様々なリスクを考えると廃止・1場体制が最も安全な選択肢と読めてしまう。もう少し深掘りしたほうがよいのではないかな。・土地取得費用のかからない大宮第2・第3公園への移転も選択肢として考えられる。・収益だけでなく文化的価値を高める施設のアイデアを検討する余地があるのではないかな。
東角井 委員	<ul style="list-style-type: none">・2050年には人口が減少する中で、大規模な施設を建設し競輪事業を継続できるのか。・廃止もしくは土地の安いどこか別の場所で継続して、ある程度の収益を得る方が現実的ではないかな。大宮公園内に再度競輪場を建設するのは難しいと考えている。
中村 委員	<ul style="list-style-type: none">・大宮双輪場は自転車競技場としてスタートした経緯もあり、競輪選手だけでなくアマチュアも多く利用している。・競輪はオリンピック種目にもなっており、競技者のレベルもどんどん上がっているため、その意味でも競輪場の存続を希望する。

大宮双輪場のあり方に関する意見書骨子（案）

令和6年10月24日
埼玉県競輪事業検討委員会

はじめに

- ・ 県営競輪事業の売上等の状況（入場者数・売上・収益）
- ・ 競輪事業の展望
- ・ 大宮双輪場の状況など
- ・ 県議会からの指摘

検討内容

- ・ 大宮双輪場について「存続（建替）」か「廃止」か
- ・ 存続（建替）する場合「現在地（大宮第一公園内）」か「移転」か

検討方法

- ・ パターンごとのメリット・デメリットの整理
- ・ パターンごとのライフ・サイクル・コストの確認
- ・ 関係者への意見聴取

委員会の意見

- ・ 各委員からの主な意見
- ・ 委員会としての意見
 - ・ 存廃に係る意見
 - （・ 建替え場所に係る意見）
 - （・ 建替え後の施設に係る意見）

おわりに

- （・ 地域への配慮）
- （・ 民間事業者等への聴取）
- （・ 再整備手法の検討）

検討の経緯

- ・ 第8回～第12回の概要

付属資料

- ・ 第10回検討委員会資料の抜粋